



年次報告書 2009

2009.1.1→
2009.12.31

(認定)特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会

タイ タイ・ラオス国境にて HIV に脆弱な人々と共に学び、歩んでいきます

カンボジア 地域に根差した母子保健活動の始まり

東ティモール 10th Anniversary! 今後も人々のいのちを守るための活動を

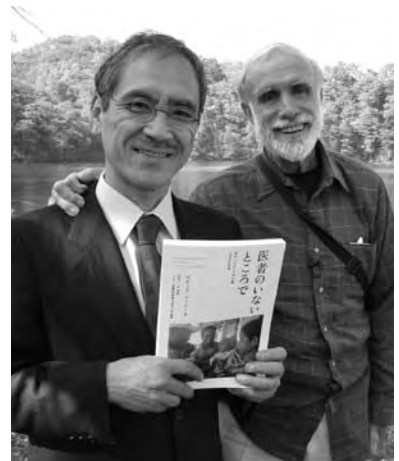
南アフリカ 5年目を迎え、少しずつプロジェクトの成果が見えてきました!

日本 いのちが平等でない現実 でも私たちは目をつむることはできません

 SHARE

すべての人に健康を! [NGOシェア] share.or.jp

「ともに考え、
ともに行動する」から
「弱さから力が生まれる」へ
一人びとに気づきと
連帯を促す活動を目指してー



2009年度の年次報告をお届けするにあたり、改めて27年間のシェアの歩みを思い起こしてみました。草の根プライマリ・ヘルス・ケアのプロジェクトとなった、1990年からのタイ東北部（イサーン）での下痢予防対策の活動を、保健ボランティアや村人たちとはじめたとき、工藤芙美子看護師がよりどころとして使った標語が、「ともに考え、ともに行動する」（タイ語で「ルアムレン、ルアムチャイ」）でした。この、住民とともに考え、ともに行動するという精神は、その後シェアにとって、もっとも大切な価値観として、また方法論として、内外での活動を支えてきたということ、改めて思い起こし、「現場」から学び、離れずに成長していくNGOであることの大切さを、いま一度確認した次第です。

2009年には、デビッド・ワーナーさんという、途上国のプライマリ・ヘルス・ケアや地域リハビリテーション（CBR）の先覚者を日本にお迎えして、有意義な講演会やワークショップを各地で開くことができました。彼の名著「医者のいないところで」Where There Is No Doctorの監訳を、さまざまな方々の協力を得て完成・出版することができたのも大きな成果でした。デビッドさんが、離日直前にシェアのために残していってくださった、「弱さから力が生まれる」From Weakness, Strengthという標語は、障害をもった保健ボランティアが、メキシコの村の保健活動において、教育・傾聴・ケアなどの面で、よりすぐれた気づきと働きを示したという、彼自身の経験から生まれた言葉です。一つの「逆説の真理」であるこの標語もまた、今後、長きにわたり、シェアの活動を指し示す光となっていくことでしょう。



これまでの私にも経験や蓄積を下切にして、新しい
地域や考え方にも挑戦し、未知の支持者や仲間の手を
差し伸べていく努力を一層強めたいと願っています。
皆さま引き続き私のご支援をよろしくお願い申し上げます。

榎 徹

シェアが目指していること

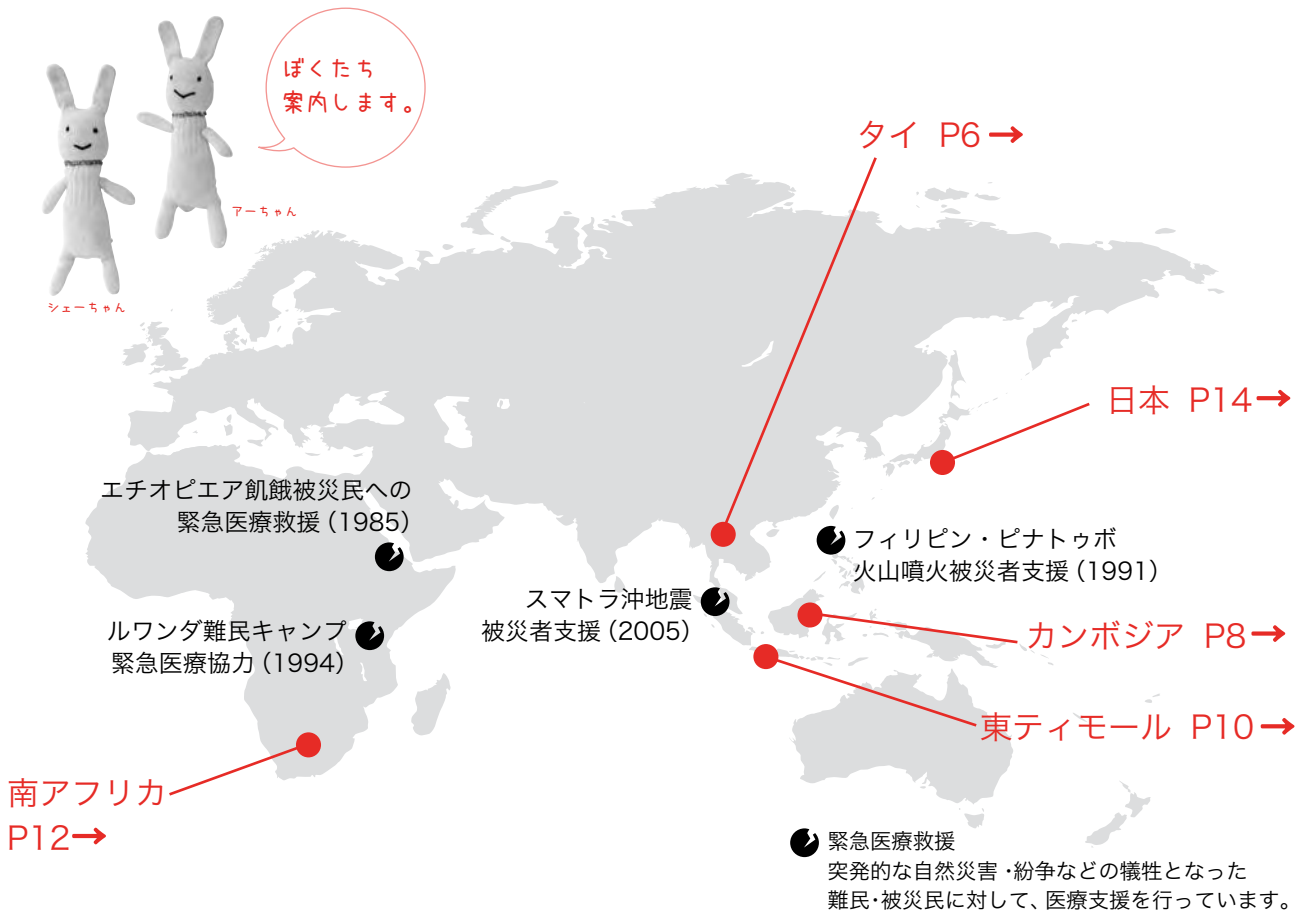
Health for ALL

シェアは、すべての人々が心身共に健康に暮らせる社会が実現することを目指しています。

シェアが取り組んでいること

シェアは、厳しい境遇にある住民が自ら健康を改善することを、側面から支援します。

また、シェアは、貧富の差や不公正を解消するために私たちに何が出来るかを、日本社会に問いかけていきます。



	タイ	カンボジア	東ティモール	南アフリカ	レソト	日本
出生生時平均余命	70 歳	59 歳	61 歳	50 歳	42 歳	83 歳
成人 HIV 感染率	1.4 %	0.8 %	NO DATA	18.1 %	23.2 %	<0.1 %
乳児死亡率 出生 1,000	約 6 人	約 70 人	約 77 人	約 46 人	約 68 人	約 3 人
5 歳未満時死亡率 出生 1,000	約 7 人	約 91 人	約 97 人	約 59 人	約 84 人	約 4 人
妊産婦死亡率 出生 10 万	約 110 人	約 540 人	約 380 人	約 400 人	約 960 人	約 6 人

ユニセフ世界子供白書 2009

日本と比較すると途上国の状況がよくわかるね。



2009年の活動ハイライト

2009年の活動の一部をご紹介します。

	1月	2月	3月	4月	5月
 タイ	エイズに影響を受けている子どもグループと養育者を対象にファミリーキャンプを実施		シェアタイ事務所現地化に向けて関係者会議を開催		カラオケバーでの移動クリニック開始 MSMグループリーダーのチェンマイへのスタディーツアー実施
 カンボジア	母子保健サービスの内容を絞り込む問題分析ワークショップの開催 皆さまのご支援をいただき完成した 新保健センターが開業!	保健知識の獲得と保健センターと保健ボランティアとの協力関係を目的とした保健ボランティア研修を実施(183名参加) サムロン保健センターの開所式を開催	保健ボランティア研修振り返りワークショップ実施		郡保健局スタッフと保健センター・スタッフを対象に、コンポンチャム州スレイセンター・コーンミア郡保健行政区へのスタディーツアーを実施(13名参加)
 東ティモール	アイレウ県で保健スタッフ対象のトレーニングを実施 エルメラ県での保健教育実施状況を把握するために、のべ23回小学校を訪問(~4月)		東ティモールの子どもたちは陽気で元気いっぱい!		シェアスタッフが他の保健NGOの活動を視察し、互いに学びあうスタディーツアーを実施 学校の先生が手洗い指導を学んでいます
 南アフリカ	ベンベ郡とカプリコーン郡の家庭菜園研修受講生の経験交流を実施(14名参加) 若者グループのメンバーを対象にカプリコーン郡でドラマ研修を実施(~3月)		予防啓発のためのドラマ研修で演技をしています		
 日本	千葉県習志野市で外国人無料健康相談会を開催し、25名が受診 美しい歌声を披露されたドゥドゥさん♪	外国人結核患者療養支援のために支援員のフォローアップ研修を東京都と実施 神奈川県鶴見区で外国人無料健康相談会を開催し、323名が受診		タイの正月にあたる12日、成田市ワットバクナム寺院でTAWANと協働し、無料健康相談会とエイズ予防啓発を実施。72名が健康相談を受ける	タイフードフェスティバルでTAWANと協働しシェアブースを出展。エイズ予防啓発、健康相談、タイ民芸品の販売を実施
 事務局	日本国際ボランティアセンターの南アフリカ事務所スタッフ、ドゥドゥズイレ・ンカビンデさん来日 アフリカン・ナイトを開催(37名参加)		第12回秩父宮妃記念結核予防国際協力功労賞を受賞 東ティモール活動報告会開催(20名参加)	カンボジア・東ティモール合同報告会 	初の試みとなったシェアカフェは大好評でした!

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

タイの仏教のお祭りに合わせてケマラートでエイズキャンペーンを実施



ケマラートで初めて日本からのスタディーツアー実施

シェア事務所にドロップインセンター設立



タイのスタディーツアーには8名の方が参加しました

年次計画会議で活動の振り返り、次年度の計画を策定

世界エイズデーにキャンペーン実施



郡保健局および各保健センタースタッフ対象活動計画発表会を開催



郡保健局および保健センターのスタッフを対象に乳幼児健診(成長モニタリングと栄養)研修(TOT)を実施

スタディーツアー開催(18名参加)

コミュニティ・ヘルスワーカー(保健ボランティア及びTBA)を対象に乳幼児健診研修および保健教育研修を実施

保健センターのアウトリーチに同行し各村での健康診断活動支援を開始



コミュニティ・ヘルスワーカーズ・デーを開催(約300名参加)

調理実習で栄養価の高い料理を学んでいます

アイレウ県で県レベルトレーナーの研修を実施(~7月)



首都ディリで国レベルの学校保健ワークショップを開催(全13県から参加)

アイレウ県で保健ボランティアの保健教育コンクールを全4郡と県レベルで開催

今年から楽しみながら保健について学ぶ、劇や歌をコンクールの項目に



アイレウ県で県レベルトレーナーへのトレーニングを実施

エルメラ県で学校保健関係者とともに年次計画策定ミーティングを開催

アイレウ県の全4郡で、保健ボランティアへのトレーニングを開催(~12月)



在宅介護ボランティアとレイカウンセラーを対象に、カプリコーン郡で治療リテラシー研修を実施(17名参加)

ブースの奥では副代表の沢田が健康相談を実施!



在宅介護ボランティア、給食センターボランティア、HIV陽性者、地域住民を対象に、カプリコーン郡で種の採取・保存と苗作り、また栄養研修を実施(12名参加)

HIV陽性者グループを対象に、カプリコーン郡でエイズと栄養についての知識を深める栄養研修を実施(11名参加)



研修生は苗作り、採種・保存の重要性を理解しながら実践していました

苗作り、採種・保存がちゃんと実践されているのかをモニタリング(カプリコーン郡)

世界エイズ・デーの一環として、イベントを開催し、ユースもエイズ予防啓発劇を立派に演じました!(カプリコーン郡)

インドネシアのバリで開催された第9回アジア・太平洋地域エイズ国際会議へTAWANメンバーと共に参加し、それぞれ発表

エイズ支援タイ人ボランティア育成研修を合宿形式で行い、10県26名が参加

医療相談員対象の「外国人HIV陽性者療養支援セミナー」を群馬県で開催。43名が受講



医療相談員対象の「外国人HIV陽性者療養支援セミナー」を栃木県で開催。23名が受講

エイズへの理解と差別・偏見をもたないという意志を表すレッドリボン

シェアカフェ「ナースが始める国際協力」をJICA地球ひろばで開催(23名参加)



「Where There Is No Doctor」の邦訳版が発行



デビッド・ワーナー氏来日講演&シンポジウム開催(302名参加)長野、愛知でも講演を開催

ワーナー著「医者いないところで」日本語翻訳版を出版



世界エイズデーSUNSTARと共催で「エイズ啓発キャンペーン」を開催

タイ・ラオス国境にて HIV に脆弱な人々と共に 学び、歩んでいきます

タイ

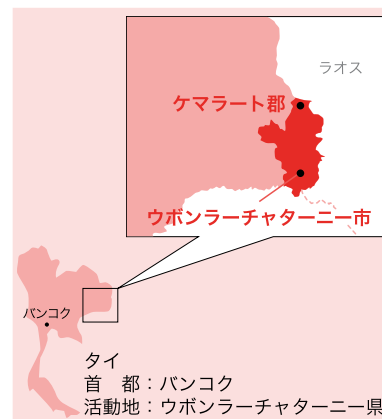
Thailand



活動の背景・課題

支援の届きにくい、よりシェアの力を必要としている人々へ

2008年始めにシェアタイは、今までの活動地を離れウボンラーチャターニー県ケマラート郡に活動地を移しました。ケマラートは、ウボン市より約100Kmほど離れたメコン川の近くのラオス国境沿いにある郡で、多くのラオス人移住労働者が働いています。また同県の国境沿いの郡では1番目にエイズ患者数が多く、増え続けている地域です。ケマラート郡病院のエイズ陽性者の支援、そしてケマラート郡のより HIV に感染リスクの高いと思われる、性産業従事者を含むラオス人移住労働者や男性同性愛者グループとの HIV 予防啓発活動を開始しました。



プロジェクト概要

タイ - ラオス国境地域におけるエイズ予防啓発およびケア・サポート

活動目的

HIV を含む性感染症に新規に感染する人が減少し、包括的なケアにアクセスできる HIV 陽性者および影響を受けている人々が増加すること。

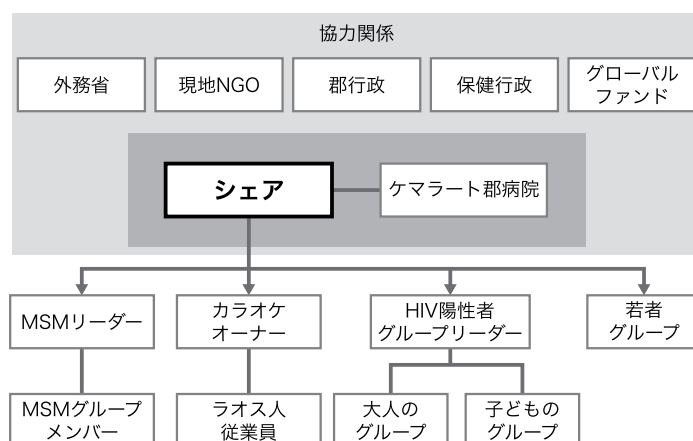
活動地

ウボンラーチャターニー県ケマラート郡

対象者

性産業従事者を含めたラオス人移住労働者、雇用者、男性同性愛者、HIV 陽性者、地域の人々

活動概要図



活動報告

信頼関係づくりが成功し、活動が活性化しています

HIV 陽性者グループ：ケマラート郡病院に登録している HIV 陽性者数は 465 名。その内子どもを含む 132 名が ARV (抗 HIV 薬) を服薬しています。HIV 陽性者グループ(50 名)とエイズに影響を受けている子どもグループ(35 名) に対して月例会やファミリーキャンプを実施しました。

ラオスからの移住労働者：カラオケバーでは、多くはラオス人女性が働き性産業にも従事しています。シェアはオーナーの協力のもと、その従業員を対象に定例会を開催し、HIV を含む性感染症とリプロダクティブ・ヘルスについて情報を提供しました。また病院と協力し、移動クリニックを 5 回行いました。MSM (男性と性行為をする男性)：MSM グループリーダーやメンバーとの月例会開催や、リーダー向けのトレーニングを行いました。またドロップインセンターを設立し、誰でもエイズの情報気軽に得られる場になっており、MSM リーダー 2 名が常駐し運営も行っています。行政と協力し、若者向けの予防啓発活動にも MSM グループが関わっています。



世界エイズデーイベントに参加する広本



カラオケバーで女性の健康について語る現地マネージャー、シリワン

成果

人々の意識や行動の変化がみられてきました

昨年はケマラートでの活動を開始したばかりで、シェアは人々との信頼関係作りに苦労しました。しかし 2009 年はスタッフが対象者との対話に取り組んだ結果、信頼を得られ活動の活性化につながりました。特に MSM の活動は地域の人々にエイズの情報発信がよりできるようになりました。またカラオケに協力してくれる店舗が 6 から 12 店舗に増え、オーナーも協力的になりました。行政の協力も大きな後押しになっています。

活動計画

より良い治療とケアがされる環境づくり、そして予防啓発を進めていきます

HIV 陽性者に対しては、月例会実施を通しグループの活性化と新たなリーダー育成、病院との連携を強化していきます。またラオス人移住労働者向けにはカラオケバーにて定例会や HIV を含む性感染症のトレーニングを行い、予防ができるようになること、医療サービスへのアクセスができるようになること、そして MSM グループにはリーダーへのトレーニングを通じて、メンバーや地域への啓発活動ができるようになることを目指します。ケマラートでのシェアの信用を高め、各グループが独自にエイズの活動ができるように地域・保健行政などとのネットワークも強化していきます。

シェアタイの挑戦 現地化に向けて

活動が地域に根付いてきた、だからこそできる現地化なんだ。応援してね!

タイ事務所では、タイでの財団法人化をするために、2008 年始めより本格的に準備をしています。最終的には一つのタイのローカル NGO となり、シェア本体から独立することで現地化をし、パートナー関係になっていくことを目指しています。2009 年はタイ事務所のタイ人代表の離任もあり、途中で混乱をしてしまったこともありましたが、少しずつステップを踏みながら、理事候補の選定や設立の向けての準備を本部と協力しながら行いました。



地域に根差した 母子保健活動 の始まり

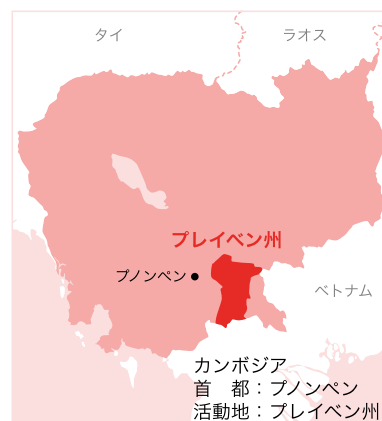
カンボジア Cambodia



活動の背景・課題

よりよい保健サービスを届けるために

シェアは2008年より、国内で最も母子保健状況が厳しい州の一つであるブレイベン州で活動を開始しました。医療施設や人材の不足から、適切な保健サービスへのアクセスが十分でないこの地域では、子どもが予防可能な病気にかかり、重症化してからお金をかけて都市部の病院にかかるという人が少なくありません。このような状況を改善するためには、公的保健施設である「保健センター」が地域保健の要として適切に機能し、異常の早期発見・診断ができるようになることが求められています。



プロジェクト概要

スバイアントー郡¹保健行政区コミュニティにおける母子保健プロジェクト

活動目的

活動対象地域の6保健センター区において、保健センタースタッフ、保健ボランティアとTBA(伝統産婆)を含むコミュニティ・ヘルスワーカーの協力により包括的乳幼児健診および妊産婦健診が実施される。

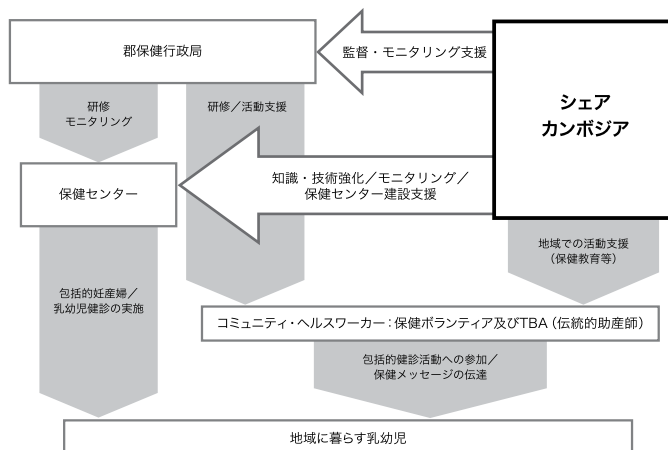
活動地

ブレイベン州スバイアントー郡保健行政区内の6保健センター区²

対象者

6保健センター区の住民 約6万3千人

活動概要図



1 2009年度よりブレイベン郡保健行政区より名称変更
2 6保健センター区のうち4箇所には保健センターの建物なし

活動報告

スタディツアーや研修を通して築く「協力関係」とは???

プロジェクト2年目から、保健センタースタッフによる「母子を対象とする健康診断」を強化するための取り組みを開始しました。まず保健センターが活動するうえで不可欠なコミュニティとの協力について学ぶため、保健スタッフ（郡保健行政局および保健センター）を対象にスタディツアーを行い、そこからの学びをもとに、保健センター、郡保健局がそれぞれの活動計画をたてました。また乳幼児健診を行うために必要な知識とスキルを強化するため、保健センタースタッフとコミュニティ・ヘルスワーカーへの研修も実施しまし



スタッフと共に、健診に来た母子の様子を見る虎頭

た。一方、昨年完成したサムロン保健センターでは、建設支援に関わった地域の人々も参加した盛大な開所式が開かれました。現在は、新しく開設した保健センターとして適切な運営が行われるよう支援を続けています。

成果

コミュニティとの協力のもと、村での乳幼児健診活動がはじまりました！

当初はコミュニティとの協力が消極的だった保健局スタッフも、スタディツアーからの学びや研修を経て、ボランティア会議や健診活動で、より積極的に保健ボランティアとのコミュニケーションを図るようになりました。また、34名の保健スタッフと203名のコミュニティ・ヘルスワーカーが参加した「乳幼児健診研修」では、参加者の知識・スキルの向上のみならず、子どもの成長や栄養に対する関心と健診活動を行うモチベーションを高めたという点でも、大きな成果となりました。研修後は、対象6保健センター全てが、コミュニティ・ヘルスワーカーと協力しながら、各村で2歳児以下の乳幼児を対象に、体重測定、成長記録、保健教育を含めた健診活動を毎月実施しています。



積極的に健診活動に参加する保健ボランティア

活動計画

健診活動の強化と、保健センター運営への支援

これまで健診を受けた1,056名の子どものうち、169名が栄養不良でした。村での健診活動を定着させ強化していくためには、ケアや治療を必要とする子どもたちに対して、保健センタースタッフが適切なアドバイスや対応ができるようになることが必須です。今後は、保健スタッフの診療技術向上のための支援を続けながら、同時に治療を必要とする子どもたちのために、他の援助機関や住民組織との連携も進めていきます。また、サムロン保健センターに続いて、テックトラ保健センターの建設も決まったなか、保健センター及び郡保健局に対する運営強化支援にも取り組んでいきます。

活動からの学び 「おしゃべり」も時には大切です



保健スタッフやボランティアとのコミュニケーションを円滑に行うためには、研修や会議などの「仕事」の場だけでなく、休憩時間や村で会った時の「おしゃべり」の場も非常に大切です。時間に追われながら仕事をこなすだけでなく、シェアスタッフが彼らと座って話をする余裕を持つことで、お互いの理解を深め、情報共有を行うことができます。よりよい人間関係づくりが活動を円滑に進めるための重要な基盤となることを実感しています。

10th Anniversary!

今後人々のいのちを守るための活動を

東ティモール

TIMOR-LESTE

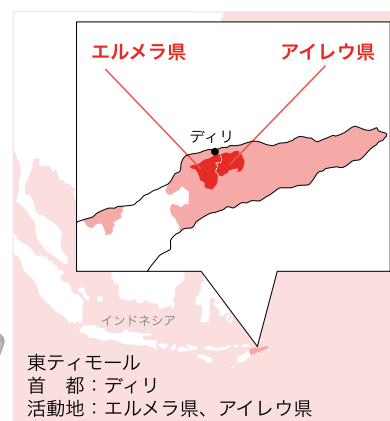


活動の背景・課題

10年目を迎える、シェアのいのちを守る活動

東ティモールでは基本的な衛生環境が未整備で、予防可能な感染症で命を落とす人が少なくありません。保健教育を実践できる人材の育成経験を活かし、2007年からは同国で開始されてまもない学校保健プログラム、保健ボランティア育成プログラムをサポートする活動を、山岳地帯に属する2県で、県行政機関と足並みを揃えて進めています。皆さまからのご支援を受け、シェアは同国で活動を始めて10年目を迎えることができました。

10年前の争乱で90%以上の建物が破壊された東ティモール。今、平和への道を一歩ずつ歩んでいます。



プロジェクト概要

小学校における保健教育プロジェクト

活動目的

トレーニングを受けた教師が定期的に保健教育を実施できるようになる

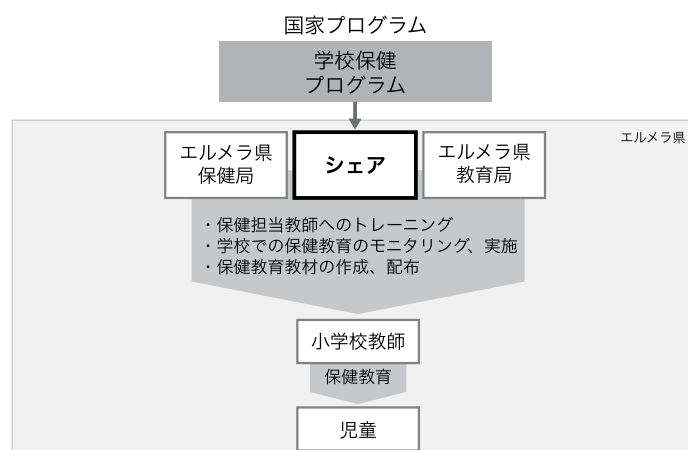
活動地

エルメラ県（人口12万人）

対象者

小学校の保健教育担当教師、校長、児童

活動概要図



エルメラ県が国の学校保健プログラムの火付け役に

小学校における保健教育活動が県行政のもとで開始されているのはエルメラ県のみという状況の中、エルメラ県保健局、教育局とともに開催した、学校保健に関する国レベルワークショップには全13県から参加がありました。これを機に「エルメラ県を学校保健のモデルにしたい」と、学校保健は保健省の優先課題の一つに位置づけられることになりました。また、エルメラ県内においては、保健の知識があり意識の高い小学校教師と保健センタースタッフから成る、教師のトレーナーが19名、新たに養成されました。このトレーナーが中心となって、県内すべての小学校で保健教育が行われるようサポートしていく仕組みづくりに力を入れていきます。

プロジェクト概要

保健ボランティア養成プロジェクト

活動目的

村の保健活動（SISCa：コミュニティでの包括的保健サービス）における保健ボランティアの活動の質が向上する

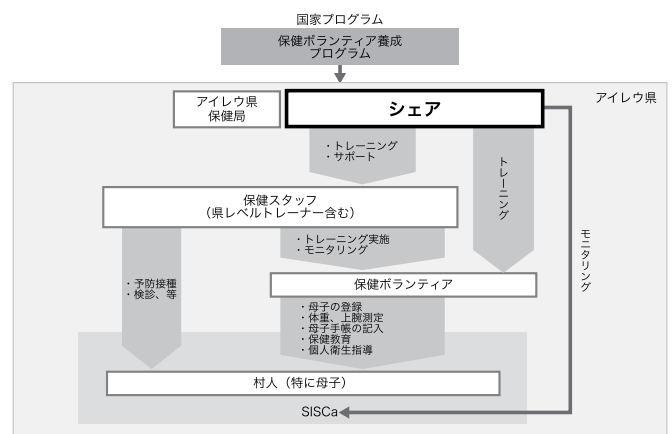
活動地

アイレウ県（人口4万5千人）

対象者

県レベルトレーナー、保健スタッフ・ボランティア、母子

活動概要図



活動報告・成果・計画

保健ボランティアが村の保健活動に欠かせない存在に

村における保健活動改善のための問題分析やボランティアへの指導法を取り上げた県レベルトレーナー対象ワークショップを2回、低体重児の親への個別栄養指導など、実践を多く取り入れた保健ボランティアへのトレーニングをアイレウ県全4郡で各2回実施しました。また、村対抗のボランティアによる保健教育コンクールでは、歌、ドラマ、フリップチャート（紙芝居型教材）を活用した保健教育が披露されました。シェアが重点的に改善活動に関わる地域では、保健スタッフとボランティアが効果的に協働する様子が見られるようになりました。この改善プロセスを波及させていくための一つの取り組みとして、保健センター会議の場を活用し、保健スタッフがボランティアをサポートしていけるよう強化していく計画です。



SISCa モニタリングの結果について話し合う吉森と現地スタッフ

活動からの喜び より健康な村を目指して



アイレウ県レメシオ郡で、2008年から保健ボランティアとして活動しているアレッシオです。村での健康相談を手伝う中で、自分の暮らす村にたくさん低体重の子どもや病気の人がいることを知りました。ボランティア養成トレーニングでは、どうしたら下痢や風邪のような感染症を防ぐことができるのかを学びました。きれいな水が手に入らなかったりと、村を取り巻く環境は厳しいですが、自分の学んだことを家族や村人に伝え、健康な村を目指す活動ができることを嬉しく思います。

5年目を迎え、
 少しずつプロジェクトの
 成果が見えてきました！

南アフリカ

SOUTH AFRICA

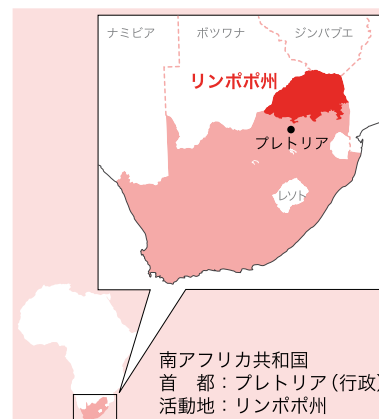


活動の背景・課題

エイズの影響をもっとも受けている国のひとつ、南アフリカ

2010年6月にサッカー・ワールド・カップが開催された南アフリカ。国家の経済成長とは裏腹に、農村地域における貧困の状況はさほど改善されているとは言えません。人口の12%に当たる570万人がHIVに感染しており、特に貧困層や地域社会、そして子ども達に深刻な影響を及ぼしています。

2005年8月から開始したJVCとの共同によるエイズプロジェクトは、2009年1月にプロジェクトとしては一旦終了し、現在はフォローアップ事業としてカプリコーン郡、ベンベ郡の現地NGOと活動を継続しています。



プロジェクト概要

住民参加型 HIV/AIDS 予防および陽性者支援 プロジェクト・フォローアップ事業



華やかなワールドカップの影に、エイズに影響を受けた子どもたちがいることを忘れてないでね。

活動目的

HIV 陽性者が健康を維持していくためのサポート体制が向上し、効果的な予防活動に取り組む。

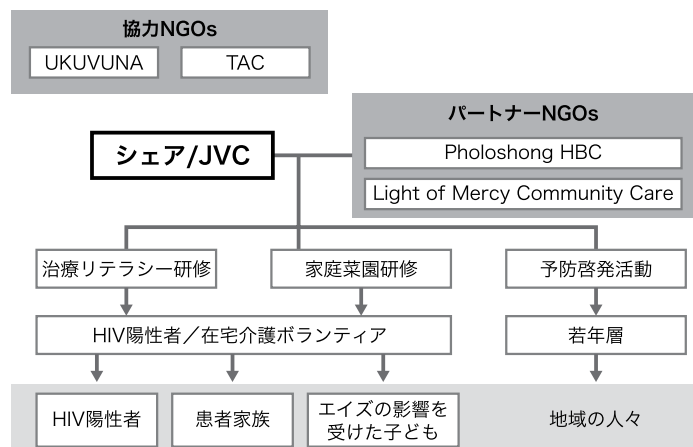
活動地

リンポポ州カプリコーン郡レペレ・ンクンピ地区、ベンベ郡マカド地区

対象者

HIV 陽性者、在宅介護ボランティア、若者、地域住民、エイズの影響を受けた子どもたち

活動概要図



活動報告

必要とされる包括的なエイズ支援－在宅介護から家庭菜園まで

2009年1月にJICA草の根事業（パートナー型）を終了しました。2月以降は2008年11月に実施したプロジェクト終了時評価の結果に基づいて、HIV陽性者・在宅介護ボランティアを対象にした「治療に関する研修」「家庭菜園フォローアップ研修」、若者を対象とした「予防啓発のためのドラマ研修」に活動を絞り、現地NGOであるPholoshong、LMCCと協力し、フォローアップ事業を実施しました。



現地シェアスタッフとNGO Pholoshongスタッフと語るJVCの渡辺

成果

地域でHIV陽性者へのケア・サポートに取り組みました

HIV陽性者が医療従事者と連携し、エイズとその治療に関する知識を身につける目的で開始された「治療リテラシー研修」は、2009年は4回実施しました。HIV陽性者だけではなく、地域の在宅介護ボランティア、クリニックで働くレイ・カウンセラーも受講し、地域全体でHIV陽性者へのケア・サポート活動に取り組みました。家庭菜園フォローアップ研修では、カプリコーン



経験交流で自分の菜園について説明しているトレーナー

郡とベンベ郡の経験交流を実施し、互いの菜園を訪問することで研修参加者全員がモチベーションを上げることができました。カプリコーン郡では、8・9月にもフォローアップ研修として種の採取・保存と苗作り、栄養研修を実施しました。11月には、これまでの成果を確認するためのモニタリングを行い、研修参加者が研修で学んだことを実施できていることを確認しました。ベンベ郡では、先行プロジェクトで育成されたトレーナーが中心となり、LMCCが運営している保育園で活発に菜園活動が行われていました。栽培された新鮮な野菜は、地域の患者さんに届けたり、子ども達の給食に使われています。予防啓発活動の支援として、若者を対象にドラマ研修を実施し、表現力を身に付けることができました。

活動計画

今年は南南交流でシェアタイに研修に行きます

2010年は、昨年の治療リテラシー研修の成果を見るために、研修生が主体となって、若者のドラマなども織り交ぜながら、エイズの予防啓発キャンペーンを開催していきます。家庭菜園研修については、雨水有効利用研修を含めた技術補完の研修を行います。また、HIV陽性者、在宅介護ボランティア、NGOスタッフがタイを訪問し、病院とHIV陽性者の関係性、HIV陽性者を支える地域づくりとネットワークのあり方、HIV陽性者の自助グループ活動について学ぶ、スタディツアーを実施します。

活動からの喜び 家庭菜園トレーニングの成果



2005年から実施している家庭菜園トレーニングは、HIV陽性者を含む多くの地域の方々が参加されています。セリーナさんもその一人で、トレーニングをきっかけに自宅の庭で野菜、ハーブ、薬草などを栽培し、学んだ調理方法を実践することによって、栄養の高い食事がとれるようになりました。今では近所の方々にトレーニングで学んだことを伝えることができるようになり、喜びの輪が少しずつ広がっています。

いのちが平等でない現実
でも私たちは目をつむる
ことはできません

日本

Japan



活動の背景・課題

全ての人の健康が“人権”として守られるように日本でも・・・

日本の外国人登録者数は年々増加し221万人を越えました。少子高齢化に伴い、今後日本は労働力人口が減少し、日本経済は外国人労働者によって支えられる局面がさらに大きくなることが予想されます。そのような中、外国人の健康保険未加入者が緊急医療を円滑に受けられない問題や、医療機関において、外国人、医療関係者がともに言葉の問題に直面しても対応できずにいるなど、社会整備は追いついていない状況です。さらに、不況の影響から多くの外国人労働者が職を失い生活が困窮し、健康維持が一層困難となってきています。シェアは、すべての人々が“人権”として健康を維持できるように、関係団体や自治体、外国人コミュニティと連携して、今年もさまざまな活動に取り組みました。



プロジェクト概要

国内保健プロジェクト

活動目的

医療サービスを受けることが困難な在日外国人が、健康を維持・増進できるような支援体制を整備する。

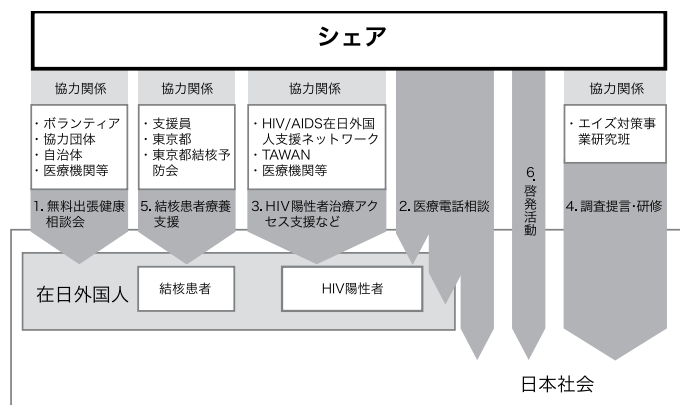
活動地

出張医療相談活動：首都圏エリア、ボランティア育成：関東甲信越エリア、電話相談：全国エリア

対象者

医療サービスを受けることが困難な在日外国人

活動概要図



出張相談、電話対応、研修開催、社会提言など様々な角度から支援を実施

1. 無料出張健康相談会

不況による解雇の影響で、生活困窮した外国人のニーズが高まったことから、初開催の埼玉県における相談会を含め、開催数が昨年より3回増え、近年最多の受診者数となりました。

実施：合計10回（港町診療所主催の相談会に協力した6回を含む）：東京都、神奈川県、千葉県

受診者数：652人（前年度より11人増加）国籍30ヶ国以上

内容：胸部レントゲン撮影、血圧測定、医科・歯科相談等。必要に応じ栄養指導や医療機関への紹介。

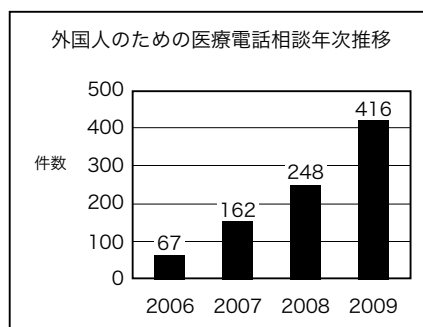
2. 外国人の医療に関する電話相談

今年も電話相談件数が増加し、特にタイ以外の外国人に関するエイズ相談が増加しました。外国人からの相談だけでなく、外国人と関わりのある医療相談員などの医療関係者から多くの相談が寄せられました。

実施：月～土曜日（うちタイ語のエイズ/健康電話相談：木・土曜） 相談回数：416回（前年度の約1.7倍）

相談分類		回数
タイ人医療相談	タイ人エイズ電話相談	123
	タイ人医療電話相談	19
外国人医療相談	外国人エイズ電話相談	119
	外国人一般医療電話相談	86
その他	健康以外の相談	19
合計		416

※回数は、相談に対するシェアからの調整連絡やe-mailでの相談件数も含む。他に日本人からの相談もあり。



シェアの活動が浸透するとともに増える相談件数。潜在的にニーズがあったことを伺えます。



3. 外国人結核患者療養支援のための支援員（通訳）派遣

東京都結核予防会に協力し、都の事業として、外国人の結核療養支援のための支援員を99回派遣しました（前年度比約1.2倍）。また、ヒンディー語支援員を初めて追加し計13言語・36名の通訳支援体制を整え、新規支援員研修を1回、フォローアップ研修を2回開催しました。

4. 関東甲信越におけるタイ人 HIV 陽性者の為の治療アクセス支援とコミュニティ支援体制の整備プロジェクト

4年間で関東甲信越・中部12県のボランティア66名を育成し、HIV陽性外国人への支援と外国人のエイズ予防啓発におけるモデル的展開ができました。在日タイ人のエイズ重症患者への対応が減少し治療アクセスは改善傾向にあります。TAWANは自立して活動できるようになりました。

- ① タイ人 HIV 陽性者を支援している11医療機関へタイ医療情報を提供したり、タイ語通訳を派遣しました（25件）。またシェア・タイ事務所と連携しタイ人患者の帰国支援を行いました。

言語別通訳派遣実績

対象言語	派遣数				総計
	2006	2007	2008	2009	
中国語	12	11	30	26	79
英語	7	13	15	27	62
フィリピン語	7	12	9	9	37
ネパール語	-	8	8	19	35
韓国語/朝鮮語	4	2	10	13	29
ミャンマー語	2	1	7	3	13
タイ語	7	5	0	0	12
スペイン語	0	3	2	0	5
ポルトガル語	0	0	0	0	0
インドネシア語	-	0	0	1	1
ベトナム語	-	-	0	1	1
フランス語	-	-	0	0	0
ヒンディー語	-	-	-	0	0
合計	39	55	81	99	274

●外国人医療電話相談（日本語、英語）
電話：050-3424-0195（直通）
03-5807-7581（代表）
月～金 10:00～17:00

●タイ語エイズ電話相談
電話：080-3791-3630
木曜日 9:00～16:00
土曜日 17:30～22:00

② タイ人コミュニティへの出張エイズ予防啓発や健康相談会を TAWAN（在日タイ人ボランティアグループ）やタイ大使館と連携して、関東甲信越7ヵ所で実施しました（対象者数のべ700人、うち健康相談会受診者数72名）。

③ タイ語エイズ電話相談や、タイ語誌やメディアへのエイズ情報掲載を行いました。

④ エイズ支援に関わるタイ人ボランティア育成研修を合宿形式で実施しました（10県より26名参加）。

5. アドボカシー活動（普及啓発・政策提言）

行政手続の対応不備によりエイズ治療の中断を余儀なくされたり、緊急医療を受けることが困難となっている HIV 陽性外国人への個別支援を関連団体と協力して行いました。こうした支援例に基づく現状の課題について、厚生労働省担当者との意見交換や法務省への要望書提出など、政策提言を実施しました。また、研究班事業におけるセミナー開催を通じて、HIV 陽性外国人が多く課題を抱える各県の担当者に伝え意見交換を実施しました。

6. エイズ患者等に対する社会的支援事業

ぶれいす東京が開始した厚生労働省委託事業において、シェアは他団体と共に外国人支援に関する協力を始めました。この事業の普及パンフレット製作、相談対応（電話、e-mail、対面）、通訳派遣、出身国のエイズ医療情報の提供、帰国支援等を通じ、20カ国の外国人陽性者へ支援活動を実施しました。

7. 調査提言・研修（研究班事業）

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業（研究班事業）「個別施策層に対する HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究」への協力は3年目を迎えました。HIV 陽性外国人の療養支援に関わる医療相談員の人材育成を目的として、3自治体（群馬、茨城、栃木）でセミナーを開催しました（参加者約100名）。外国人医療の向上に向けた、医療機関、自治体、NGO の連携を推進する活動や、研修に参加した医療機関について調査を実施しました。HIV 陽性外国人の出身国の医療情報収集や、医療相談員向けの外国人療養支援ハンドブックの改訂などを行いました。また港町診療所での実践例をまとめ、積極的な医療アクセスの支援こそ早期受診を促し予防にも貢献することを示しました。

8. その他の活動

① 移住者の健康支援に関する NGO 等とのネットワーキング構築（国内



TAWAN と協働して行ったワットパクナム寺院での無料健康相談会とエイズ予防啓発



TAWAN エイズ講習会



群馬で開催された「外国人 HIV 陽性者療養支援セミナー」

とアジアレベルで実施)

- ② 講演会や学会発表（結核予防講演会、アジア・太平洋地域エイズ国際学会（ICAAP）、日本エイズ学会）、大学における講義
- ③ 医療サービスを受けることが困難な野宿者に対する医療支援を行なう団体の人材募集や、新宿連絡会・寿医療班などの無料医療相談活動及び山友クリニックの診療活動に協力しました。

活動計画

世界的経済不況、在日外国人の国籍やニーズの多様化。シェアがなすべきことは。

経済不況でまだまだ生活が不安定となる方が多い中、在日外国人への健康支援のために次の活動を実施します。－無料出張健康相談会、医療電話相談、外国人結核患者療養支援のための支援員（通訳）派遣、タイ人へのエイズ予防啓発、エイズ患者等に対する社会的支援事業（HIV 陽性外国人の療養支援）、調査提言・研究（最終年度の成果物・新年度開始）、アドボカシー事業（外国人エイズ医療の改善）、学会での成果発表、在日外国人医療支援に関する NGO 等とのネットワーキング構築（国内・アジア）、野宿者への医療支援への協力－

2006年から開始したタイ人のためのエイズ支援事業は、在日タイ人 HIV 陽性者の重症者対応が減少し治療アクセスは改善傾向にあること、TAWAN による啓発活動が自立してきていること、2009年で大型助成金が終了することから、2010年よりエイズ啓発の規模を縮小します。

活動の難しさ

死なずに済んだはずの外国人が未だに亡くなってしまいう日本の現実



2年前、重いエイズを発症した在日タイ人2名が医療機関で十分な治療を受けられず、命を落としたり重い障害が残ったという事件がありました。そのようなでき事が起こらないように、シェアは様々な活動を通じて、啓発や政策提言を行ってきました。しかし、同様の問題は今も続いています。Aさんは日本人夫をもち日本国籍のあるお子さんを育てているお母さんでしたが、在留資格を申請してもなかなか認められず健康保険も身体障害者手帳もないまま、財産を切り崩しながら毎月20万円近い医療費を支払い続けていました。しかし、2年経っても一向に資格をもらえず、資金が底をつき医療費を払えなくなり、抗HIV薬を服用することができず治療を中断せざるを得なくなりました。抗HIV薬の中断は薬が効きにくいウイルスを作ってしまったおそれがあり、Aさんが今後使える薬は限られてしまいました。このことは人道的にも公衆衛生的にも深刻な状態を引き起こしたということになります。同様に日本人の子どもを育てている女性で在留資格に手間取る間に病状が進行しなくなってしまった人や、ビザが切れてしまった外国人男性が、歩行が困難になるほど衰弱して友人たちに病院に担ぎ込まれたのに、治療がなかなか受けられずに死亡するなどの事件が起きているのが現実です。

日本は、開発途上国に行き、医療にアクセスできず十分な治療が受けられない人々を様々な形で支援するためにも国際保健協力活動を行っています。しかし、そのような支援を行っている日本の国内において、日本人自身が、医療にアクセスできず十分な治療が受けられない人々（外国人）をつくってしまっているという現状を、私はシェアに来て気付くことができました。

（国内保健事業アシスタント 山本）

デビッド・ワーナー氏来日！

983 人にプライマリ・ヘルス・ケアについて伝えました

普及啓発

●講演会、活動報告会、講師派遣

[デビッド・ワーナー氏来日シンポジウム&講演]

	日にち	内 容	主催	参加人数	会場
1	10/25	シンポジウム「保健医療と人権—すべての人が健康に暮らせる社会は実現できるのか？」	シェア	302 人	国立国際医療センター
2	10/26	小児障害者のリハビリテーションに関する講演会 「途上国の障害児たち—私自身の経験と日本の障害児たちや家族へ伝えたいこと」	心身障害児総合医療療育センター	63 人	心身障害児総合医療療育センター
3	10/27	シェアスタッフ向けミニ講演		19 人	シェア東京事務所
4	10/28	CBR（地域リハビリテーション）セミナー 「Inclusive and Dynamic Development の実践に向けて」	JICA	109 人	JICA 本部
5	10/29	医療者向けの講演会 「世界のプライマリ・ヘルス・ケア…過去と将来」	佐久総合病院	400 人	佐久総合病院
6	11/1	講演会 「人びとの手に健康を—それを阻むものと私たちの課題」	AHI・日本福祉大学・国際開発学会 東海支部	90 人	日本福祉大学 名古屋キャンパス
合計参加人数				983 人	



シンポジウムで保健医療と人権について語るデビッド・ワーナー氏（10月25日）



「すべての人々が恩恵を受ける、ダイナミックな開発」をテーマにセミナーを開催（10月28日）

[活動報告会]

- ・カンボジア報告会「NGO から見たカンボジア保健医療の現状と課題」（2009 年度カンボジア連続セミナー第 3 回）
- ・東ティモール報告会「子どもたちのいのちを守る」
- ・南アフリカ報告会「アフリカン・ナイト」
- ・シェアカフェ、「ナースが始める国際協力」 他（全 13 回）

[講師派遣]

- ・国際保健医療活動講義：東京都 国立看護大学校
- ・読売新聞主催・ノーベル賞受賞者を囲む科学フォーラム：東京都 国連大学
- ・NPO・NGO 入門講義：東京都 学習院大学
- ・性教育講演会：群馬県 高崎市小中養護学校性教育主任会 他（全 31 回）

[研修]

- ・JICA エイズ研修（全 4 回）



ワーナー氏（10月29日）



シェアカフェで国際協力について語るスタッフ（7月11日）

●教材制作・貸し出し

[制作]

・書籍 デビッド・ワーナー著「医者のないところで」日本語翻訳版

[貸し出し]

・JICA 地球ひろば 他 (全6回)

書籍ピックアップ!

デビッド・ワーナー著 「医者のないところで」日本語翻訳版

途上国で働く保健ボランティア、助産師、看護師ら、そして住民自身に圧倒的信頼と支持を得ている『Where There Is No Doctor』の邦訳版です。(2000円+税)

*シェアネットショップよりご注文ください。

<http://share.or.jp/shop/>



「村の保健ワーカーへの言葉」
は必読です!



●学生訪問の受入

- ・福島市立清水中学校
- ・仙台市立高森中学校
- ・名古屋市立宝神中学校 他 (全5校)

●イベント参加

- ・グローバルフェスタ 他 (全8回)



グローバルフェスタでシェア東ティモールの保健教育劇を行うスタッフ・インターン (10月)



●スタディツアー

タイ：2009年8月16日～23日 8名の参加者がタイ農村に滞在し、シェアの活動を見学

カンボジア：2009年8月22日～29日 18名の参加者がカンボジアの活動地や病院を見学



ケマラート郡病院でHIV陽性者グループと交流する参加者 (タイ)



郡病院でエイズに影響を受ける子どものグループ活動に参加 (タイ)



フレイベン郡保健局スタッフと意見交換 (カンボジア)

●調査研究

[学会]

- ・アジア・太平洋地域エイズ国際学会 他 (全4学会)



グループ活動に参加したり、保健局のスタッフに質問したりできる旅行はスタディツアーだけ!

みんなの力で、村が変わる！

広報・サポーター活動

ご支援ありがとうございます。

皆さまのご協力で、**25,203,480 円**の会費、寄付が寄せられました。

●会費収入

会費収入 4,916,000 円

●寄付収入内訳

寄付総額 20,287,480 円

一般募金	13,226,287
指定募金	2,608,031
マンスリーサポーター	2,540,000
シェア国際保健基金	1,100,000
いのちのパートナー	450,000
インターネット募金	363,162
合計	20,287,480

昨年完成したサムロン保健センターで出会った、子どもを連れてお母さん。薬をもらいに定期的に通っています。
(カンボジア事業担当 山瀬)

●1万人が通う保健センターを建設！

保健センター建設募金に 155,031 円が集まりました。ありがとうございます。

皆さまから頂戴したご寄付で、1万人の村人が通うテックトラ保健センターを建設する予定です。



テックトラ保健センター建設予定地



先に完成したサムロン保健センター。現在シェアは保健センター運営のフォローをしています。

募金ピックアップ！

Yahoo! インターネット募金

レッドリボンのワンポイントが入ったシェーちゃん&アーちゃんの壁紙(全4種類、季節に合わせてデザインの変更有)とシェアの活動地の写真を使った壁紙(全4種類)を購入することで、購入金額が寄付になります。募金額は500円～10万円の中から選ぶ事ができ、また毎月定額募金の設定もできます。お支払いの方法は、クレジットカード決済または銀行振込。詳細は下記 URL にアクセスしてください。

<http://share.or.jp/share/donate/variety/>

その他の参加インターネット募金: ammado、イーココロ!、NGO アリーナ、JANIC NGO サポート募金、チャリティ・プラットフォーム、4en (フォーエン)、募金箱 (50音順)



●ボランティア・サポーター企画

[ボランティア]

発送／事務作業、広報など 69 名の方に事務局運営をお手伝いいただきました。

[サポーター企画]

アクセンチュア株式会社の皆さんが、社内クリスマスパーティでチャリティオークションを開催してください、チャリティTシャツの収益、募金とあわせて、526,716 円を東ティモールプロジェクトへご寄付いただきました。また、コンサルティング会社としての知見を活かして、シェアが抱えている経営課題解決に向け、研修を実施してくださいました。



アクセンチュアのクリスマス チャリティオークション



東ティモール：保健教育研修に参加する小学校教師



研修の様子を覗く子どもたち。興味津々です！



サポーター企画ピックアップ！

ホットジェネレーション チャリティコンサート

2008 年からクリスマス時期に「フレンドシップコンサート」と題して、ホット・ジェネレーションがシェアのプロジェクト支援のためのチャリティコンサートを開催してくださっています。2 回目にあたる 2009 年は、南アフリカのエイズの影響を受けた子どもたちが、お父さんやお母さんをエイズで亡くした悲しみを乗り越えながら、地域の人々と共に一生懸命生きている様子を、100 名を超える子どもたちが見事に演じてくれ、会場は感動の涙に包まれました。子どもたちの演技や歌を通して、たくさんの人たちがシェアの活動や南アフリカのエイズについて学ぶことができた素晴らしい手作りのコンサート。ホットジェネレーションのみなさん、本当にありがとうございました。

<http://www.hot-generation.com/jp/>



コンサートでシェアの活動地、南アフリカのエイズ遺児を題材にした Hot Generation のミュージカル (12 月)。

●シェアオリジナルグッズ

シェアグッズにタンブラーが仲間入りしました。形は、「マグ」と「タンブラー」の 2 種類。また、バレンタインデーのチャリティギフトとして、シェアを支援する複数の企業の商品と、お馴染みのシェーちゃん＆アーちゃんのぬいぐるみをパッケージにして販売しました。



タンブラー&マグ



バレンタインデーに合わせて販売したチャリティギフト

●情報発信

インターネットを中心とした各種媒体でシェアの活動を伝えました。

・機関誌発行 (年 4 回)、年次報告書発行 (6 月)、メールマガジン発行 など

支えてくださり、ありがとうございます。

シェアの支援者

10万円以上の補助金、助成金、寄付金をいただいた団体・企業

●タイ事業

- ・(特活) アーユス仏教国際協力ネットワーク
- ・株式会社フェリシモ
- ・(財) 毎日新聞東京社会事業団
- ・ユニバーサル・アクセス (Universal Access)
- ・UI ゼンセン同盟「小さなお宝キャンペーン」
- ・(特活) WE21 ジャパン (あさお、かながわ、ざま、ほどがや、海老名、都筑、たかつ、ひらつか)
- ・外務省 (世界エイズ・結核・マラリア対策基金)

●カンボジア事業

- ・花王株式会社
- ・花王ハートポケット倶楽部
- ・株式会社フェリシモ
- ・(財) ゆうちょ財団 (国際ボランティア貯金)
- ・株式会社ラッシュジャパン
- ・日本労働組合総連合会 (連合「愛のカンパ」)
- ・学生国際協力団体 (Piece Card Project)
- ・People for Social Change
- ・UI ゼンセン同盟「小さなお宝キャンペーン」
- ・(特活) WE21 ジャパン (ひらつか、海老名)
- ・外務省 (日本 NGO 連携無償資金協力)

●南アフリカ事業

- ・日蓮宗国際協力募金
- ・寺ネット・サンガ
- ・(特活) チャリティ・プラットフォーム
- ・(独法) 国際協力機構 (JICA)

●東ティモール事業

- ・(財) 日本国際協力財団
- ・(財) ベルマーク教育助成財団
- ・(財) ゆうちょ財団 (国際ボランティア貯金)
- ・(特活) WE21 ジャパン (こうほく、みどり、みやまえ)
- ・(独法) 国際協力機構 (JICA)
- ・外務省 (日本 NGO 連携無償資金協力)

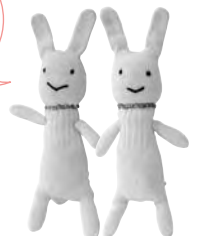
●国内保健事業

- ・リーバイ・ストラウス財団
- ・東京都 (東京都在住外国人支援事業助成)

●その他

- ・(医) 木村小児科
- ・(財) 倶進会
- ・(特活) 国際協力 NGO センター (ネット募金)
- ・ゴールドマン・サックス証券株式会社
- ・株式会社札幌電工
- ・サンスター株式会社
- ・三和ホールディングス株式会社
- ・株式会社せーのデザイン
- ・(学) 東京医科大学
- ・東京弁護士会
- ・長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院
- ・日本化学エネルギー鉱山労働組合協議会
- ・(財) 庭野平和財団
- ・株式会社毎日新聞社
- ・六花亭製菓株式会社
- ・(独法) 国際交流基金

みんなの力をあわせて、プロジェクトができるんだ!



いのちのパートナー参加企業・団体

- ・サンスター株式会社
- ・三和ホールディングス株式会社

組織運営

①海外駐在員

- ・タイ：広本充恵（6月着任）
- ・カンボジア：佐藤真美、虎頭恭子（4月着任）
- ・東ティモール：伊藤洋子（3月離任）、中口美保、相川智美（12月離任）、谷口加奈（7月着任）、吉森悠（10月着任）、井上玲奈（インターン）

②国内スタッフ

山口誠史、青木美由紀、西山美希、森本由布子、小泉香織、花岡潤（8月退職）、飯沢幸世、李祥任、松村純雄（パートタイム8月退職）、星英也（ボランティア）、廣野富美子（パートタイム）、山本裕子（外務省専門調査員5月着任）、山瀬直子（6月着任）、秋田真千代（パートタイム6月着任）、中山薫（パートタイム8月着任）、小脇忠修（11月着任）
第7期インターン：小林灯里、坂元紫乃、増田響子、岡真澄、山本勇樹、竹下佳伸、青山夏葉、Neal Parikh
第8期インターン：移川美季、桑山奈々、中山涼子、長沢有華、山根麻衣子、永野優佳、青山夏葉、浦林貴子（短期）、Victor Medina（短期）

③役員

理事

本田徹（代表理事、浅草病院）、沢田貴志（副代表理事、港町診療所）、磯田厚子（女子栄養大学教授）
大脇甲哉（港町診療所）、功能聡子（Social Investment Fund for Cambodia）、鈴木直喜（清泉女子大学教授）、仲佐保（国立国際医療センター）、仁科晴弘（江東病院）、本橋栄（至誠学舎立川、元シェア事務局長）、柳澤理子（愛知県立大学教授）、山口誠史（シェア事務局長）、李節子（長崎シーボルト大学教授）

監事

蓮尾慶治（元日本民際センター事務局長）、高塚直子（公認会計士）

顧問

石川信克（結核予防会結核研究所所長）、鎌田實（諏訪中央病院管理者）、天明佳臣（港町診療所理事）

専門委員

池上千寿子（ぶれいす東京代表）、熊岡路矢（日本国際ボランティアセンター理事）、工藤芙美子（保健アドバイザー）

支援者紹介

サンスター株式会社

2006年の「かぜの音楽祭」協賛以来、「いのちのパートナー」として、またエイズ啓発キャンペーン『ネイルにレッドリボンを。』の共同主催者として、さまざまな形でご一緒し、シェアさんの活動や各国の状況についても学ばせていただいています。



広報室の吉田智子さん

会計報告

2009年度シェア貸借対照表

2009年12月31日現在(単位:円)

資産の部		負債と次年度活動準備金の部	
科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産の部		1 流動負債	
①現金	234,345	①未払金	50,600
②銀行預金	27,645,428	②前受金	16,324,315
③郵便貯金	3,539,287	③短期借入金	0
④海外事務所現預金	6,992,581	④預り金	1,004,761
i タイ事務所	4,293,514	⑤未払消費税等	541,037
ii カンボジア事務所	973,256	流動負債合計	17,920,713
iii 東ティモール事務所	1,725,811		
⑤棚卸資産	1,510,213		
⑥未収金	470,963	2 固定負債	
⑦立替金	21,305	長期借入金	0
⑧仮払金	309,473	基金預託金	7,586,000
流動資産合計	40,723,595	事業引当金	2,016,722
		固定負債合計	9,602,722
2 固定資産		負債合計	27,523,435
①保証金	300,000		
固定資産合計	300,000		
		III 次年度活動準備金の部	
		前期繰越活動準備金	6,587,273
		当期収支差額額	6,912,887
		次年度活動準備金合計	13,500,160
合 計	41,023,595	合 計	41,023,595

USドル=93.11円
タイバーツ=2.79円

監査報告書

1. 監査事項

特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会の2009年1月1日から12月31日までにおける実施事業並びに一般会計収支決算について

2. 結果報告

監査の結果、事業は適正に実施され、また会計決算については、収支計算書、貸借対照表および財産目録を諸帳簿、証憑種類と対照し、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。

2010年2月19日

監事 高塚直子 (印)

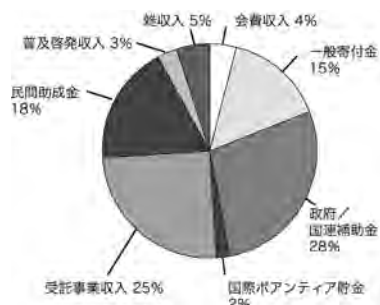
監事 蓮尾廣治 (印)

2009年度収支決算
2010年度収支予算

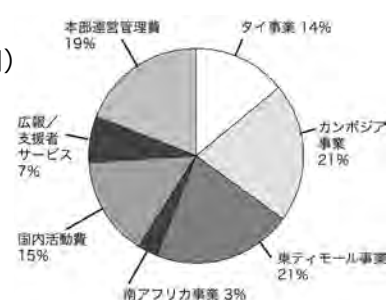
自2009年1月1日 至2009年12月31日(単位:円)
自2010年1月1日 至2010年12月31日(単位:円)

科目	2009年度 予算	2009年度 決算	執行率	2010年度 予算	構成比	対前年度比
収入の部						
1.会費収入	4,800,000	4,925,000	103%	5,000,000	3%	102%
2.一般寄付金	17,390,000	17,584,393	101%	28,031,448	19%	159%
①用途指定寄附	5,390,000	4,675,290	87%	12,031,448	8%	257%
②用途無指定寄附	12,000,000	12,909,103	108%	16,000,000	11%	124%
3.政府/国連補助金	44,431,469	33,180,040	75%	60,874,183	42%	183%
4.国際ボランティア貯金	800,000	2,235,494	279%	0	0%	0%
5.受託事業収入	27,643,250	29,157,223	105%	24,744,242	17%	85%
6.民間助成金	22,655,625	21,961,403	97%	16,868,106	12%	77%
7.普及啓発収入	3,100,000	3,308,488	107%	5,450,000	4%	165%
8.雑収入	3,450,000	6,248,955	181%	4,180,000	3%	67%
当期収入合計	124,270,344	118,600,996	95%	145,147,979	100%	122%
支出の部						
1.海外活動費	78,000,782	66,297,653	85%	94,635,652	65%	143%
①タイ事業	20,184,794	15,730,896	78%	22,610,176	16%	144%
②カンボジア事業	25,961,245	23,978,031	92%	34,574,640	24%	144%
③東ティモール事業	30,354,743	23,725,158	78%	31,268,761	22%	132%
④南アフリカ事業	1,500,000	2,863,568	191%	5,682,075	4%	198%
⑤調査その他	0	0	0%	500,000	0%	-
2.国内活動費	17,935,200	16,399,133	91%	16,199,800	11%	99%
①国内保健活動	6,709,200	5,783,191	86%	5,053,800	3%	87%
②普及啓発活動	6,386,000	7,738,274	121%	10,348,000	7%	134%
③デビッドワナー関連事業	4,840,000	2,266,009	47%	0	0%	-
④その他事業支出		611,659		798,000	1%	130%
3.広報/支援者サービス	7,387,690	8,114,554		12,219,500	8%	151%
①広報	3,492,000	3,686,999	106%	4,102,500	3%	111%
②市民社会ネットワーク		0		2,500,000	2%	
③支援者サービス	3,895,690	4,427,555	114%	5,617,000	4%	127%
4.本部運営管理費	20,571,600	20,815,597	101%	21,307,700	15%	102%
①給与手当等	13,761,600	13,723,854	100%	13,458,500	9%	98%
②事務所賃借料・通信費等	6,810,000	7,091,743	104%	7,849,200	5%	111%
5.予備費	300,000		0%	300,000	0%	-
当期支出合計	124,195,272	111,626,937	90%	144,662,652	100%	130%
当期収支差額	75,072	6,974,059		485,327		7%
特別損益(為替評価益)		481,128				
消費税		472,300		400,000		
法人税・都民税		70,000		70,000		
税引後収支差額		6,912,887		15,327		
前期繰越金	6,587,273	6,587,273		13,500,160		
次期繰越金	6,662,345	13,500,160		13,515,487		

2009年度収入
(118,600,996円)



2009年度支出
(111,626,937円)



命みつめて

5

医療で立ち直り期待

「失礼ですけどドヤ（簡易宿泊所）暮らしです。本田さんは診療所にほど近い浅草病院（台東区）のか。日雇い労働者の街として知られる東京・山谷。特定非営利活動法人（NPO法人）「山友会」が開く無料診療所で、医師の本田徹さん（66）が丁寧に尋ねる。「テントにいる。仕事はしてるが部屋代までは払えない」。患者の男性（55）は厳しい暮らしを吐露した。

寄付金で運営される無料診療所は、十畳ほどの部屋に机が一つとベッドが二つ。ボランティアの医師や整体師らが交代で、日雇い労働者やホームレスらを診

る。本田さんは診療所にほど近い浅草病院（台東区）の内科医だが、診療所では患者さんに距離を感じさせないように「白衣は着ず、セーターにスラックス姿だ」。「段ボールで暮らしているの？」。患者の生活ぶりを聞くが、深いいはしない。「家族とのつながりを捨てて生きている方が多く、思い出すと自体が苦痛になる」からだ。

本田さん自身、幼少時に辛い思い出がある。五歳の時に幼稚園ではしかにかかり、うつった生後六カ月の弟が亡くなった。「子どもがなぜ理不尽な死に方を

山谷でボランティア診療



無料診療所で診察する本田徹さん。疲労の色が濃いが、まなざしは真剣そのものだ。東京都台東区で

しなければならなかったの海外協力隊員に応募、北アフリカのチュニジアに二年間いた。「自分がどういっただけかもしれない」。いつしか医師を目指していた。医療研修を終えると青年

ず、文化も人種も違う国で

働いてみたかった。帰国後は過疎地での医療を志し、その分野で先駆けとされる長野県佐久市の佐久総合病院に四年間勤務。その後、上京して病院に勤めながら、一九八三年に非政府組織（NGO）「シエア」国際保健協力市民の会」の発足に参加した。

シエアでは二十五年にわたり、途上国での保健活動やエイズ予防などに取り組んできた。山谷での無料診療は山友会がシエアに医師派遣を依頼したのがきっかけ。途中、病院の仕事が忙しくなり離れたが、十年ほど前に山谷で看護活動を始めた看護師から依頼され、無料診療に再び参加した。勤務医の合間にボランティア診療やシエアの活動を行ったため、「一日四時間ぐらいしか眠れない」。日曜日もつぶれることがある。ふだんから顔には疲労の色が濃い。本人も「よく言われます」と苦笑する。そんな本田さんを妻と三人の子どもが優しく見守る。

目いっぱい働き続けるのは「路上で死ぬかもしれない人が医療をきっかけに立ち直ることがある。医者としての生きがいみたいなものを掘り起こされるところがあるから」と言う。「うち捨てられたような人たちが明るさを持って生きられるような世の中をつくりたい」（稲垣太郎）

「おわり」

2009 年度メディア掲載

シェアの活動が新聞などのメディアで数多く取り上げられました

テレビ	12月28日	NHK	在日外国人のエイズに関する活動が紹介
新聞	2月20日	東京新聞	命みつめて⑤ 山谷でボランティア診療
	5月1日	医業・健康ニュース	カンボジア・東ティモール現地状況報告
	10月1日	医理産業新聞	SHARE 「保健医療と人権」10月25日にシンポ
	10月29日	朝日新聞	医療支援の「教科書」日本語版も
	12月20日	THE DAILY YOMIURI	Health care 'bible' published in Japanese
雑誌・機関誌	1月1日	メディカル朝日	情報グリッ プ 25年の活動を書籍化「すべてのいのちの輝きのために」刊行
	1月1日	NHK 社会福祉セミナー	外国人支援は医療崩壊を止める最初の砦
	1月25日	看護教育	新刊案内
	1月31日	JAMIC JOURNAL	「国際医療協力とは」、「在日外国人の医療環境改善へ」
	2月1日	SEVENSEAS	あなたの寄付をカタチにする NPO・NGO 一覧
	3月31日	NI JAPAN	特集：命を落とす母親たち 日本人の動き
	5月1日	Nursing Today	WLBで行こう「仕事と NGO 活動の両立が私の国際協力」
	6月1日	ecocolo	SHARE 「保健センター建設支援キャンペーン」
	8月1日	NHK 社会福祉セミナー	医療現場から見える貧困高齢者問題
	8月1日	月間保険診療	フロンティア's 「開発途上でプライマリ・ヘルス・ケア」
	8月10日	The 9th ICAAP Post	Migration: Vulnerable factor for HIV infection
	9月1日	国際開発ジャーナル	「デビッド・ワーナー氏の来日に寄せて」、書籍紹介「すべてのいのちの輝きのために」
	9月9日	an an	社会企業家、NPO、ボランティア。世の中に貢献する仕事に興味津々！
	10月1日	月間新医療	こうさてん 「シェア 保健医療と人権講演会&シンポ」
	10月20日	看護技術	開催案内「デビッド・ワーナー来日講演会&シンポジウム」
	10月31日	週間日本医事情報	プラタナス 「国際保健医療の新しいかたちと日本の地域医療再生」
	11月1日	ソトコト	保健医療と人権について考える、国際保健 NGO のシンポジウム。
	11月10日	看護管理	インフォメーション「デビッド・ワーナー氏来日公演会&シンポジウム」
	11月25日	看護教育	INFORMATION「デビッド・ワーナー氏来日公演会&シンポジウム」
	11月25日	東京グラフィティ	現場の「今」を知る人にインタビュー 「AIDSを知るってどういうこと？」
12月1日	月刊イオ	Books 「医者はいないところで」	
連載		スマタ de カルチャー ア・ラ・イ 東北だより	
冊子	3月25日	新宿ニュース	共に生きる「外国人の健康をサポートします」
	10月	Discover World	NPO の考える国際協力
参考書	1月20日	看護学全書 39 国際看護学	国際看護活動の支援を必要とする対象、国内外の NGO による国際協力活動
情報誌	11月20日	病院経営	海外医療事情 「医者はいないところで」

(テレビ 2 件、新聞 13 件、雑誌・機関誌 37 件、会報 8 件、その他 6 件)



NHK World "Reaching Out"
12月28日 放送



NHK 社会福祉セミナー
8月1日

タイのメディア
には 2008 年にも
載ったよ!



Smart Buying
2008年5月号



an an 9月9日



ecocolo 6月1日



Bangkok Biz News 8月16日

MDGs から見るカンボジア母子保健の現状

数字で知るシェア

カンボジア MDGs

2000年9月の国連ミレニアム・サミットで、世界の貧困を半減するために国際社会が取り組むべき、「国連ミレニアム宣言」が採択されました。この宣言と国際開発目標を統合し、2015年までに達成すべき具体的な8つの目標としてミレニアム開発目標（MDGs）が世界共通の目標として掲げられました。

シェアの活動国であるカンボジアにおいても、9つの目標と25のターゲット、106の指標からなるカンボジアMDGs（表1）が設定され、様々な分野において取り組みがされています。カンボジアは近隣諸国と比べて母子の死亡率が高く（表2）、目標4、5にあるように母子保健状況の改善が重要課題になっており、2015年の目標達成に向けて、カンボジア保健省は国家保健戦略計画を策定し、MDGs達成のために国際機関やNGOなど様々な開発パートナーとの連携による改善プログラムを実施しています。

表1：カンボジア MDGs

目標1	極度の貧困及び飢饉の撲滅
目標2	普遍的基礎教育（9年）の達成
目標3	ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上
目標4	乳幼児死亡率の削減
目標5	妊産婦の健康の改善
目標6	HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止
目標7	環境の持続可能性の確保
目標8	開発のためのグローバル・パートナーシップの推進
目標9	地雷、不発弾の除去と犠牲者支援

出典：国連開発計画（2005）

表2：カンボジア、近隣国、日本の主要保健指標比較

	5才未満児死亡率 (対出生千人)	乳児死亡率 (対出生千人)	妊産婦死亡率 (10万人あたり)	平均余命 (才)
カンボジア	82	65	470	59
ベトナム	17	15	160	62
タイ	8	7	24	70
日本	4	3	8	82

出典：UNICEF(2008)

MDGs 達成に向けた母子保健指標の変化と現状

母子の保健状況について、指標の変化（表3）をもとに見てみましょう。

「目標4：乳幼児死亡率の削減」に関しては、2005年に実施された人口保健調査により、5歳未満死亡率の低下が確認されています。一方で、新生児死亡率の改善は若干遅れているため、今後保健省が力を入れて取り組むことが合意されています。また、「目標5：妊産婦の健康の改善」に関してはこの保健調査では死亡率は依然高いままであり、2008年に新たに策定した保健戦略計画では、優先課題の一つとなっています。

表3：カンボジア MDGs の主な保健関連数値目標

		基準値（年）	推定値 2005-08年	目標値 2015年
目標4	5歳未満時死亡率	124 (1998)	83	65
	乳児死亡率	95 (1998)	66	50
目標5	妊産婦死亡率	437 (1997)	472	250
	合計特殊出生率	4 (1998)	3.4	3
	専門技能者による 介助分娩比率 (%)	32 (2000)	55	80
	家族計画普及率 (%)	18.5 (2000)	27	60

出典：カンボジア MDGs、国家保健戦略計画 2008-2015 保健省

このように、様々な取り組みにより、変化が出つつある一方で、数値目標達成を目的とした活動による弊害も生まれているのが現状です。

乳幼児死亡率については数値的な改善が見られ、達成できるであろうといわれている一方、改善が立ち遅れている妊産婦死亡率については達成が難しいと予測されています。こういった状況のなか、妊産婦死亡率という特定の分野に限った改善プログラムが重点的に実施されているため、報告の義務のない乳幼児の病気や死亡については軽視されるといったプログラムの歪みが現場で起きています。また、MDGs 達成を見据えた保健プログラムが様々な援助機関によって支援されています。各ドナーがこのプログラムの成果として数値目標的達成を求めるため、地域の保健スタッフはこの数値を報告する作業に時間を割かざるを得ない状況です。公的保健サービスが本来持つ「母と子の健康を守る」という目的が「数値達成」に置き換わる傾向にあり、健康を守る役割を担えていないことが懸念されます。

シェアの活動と MDGs – 乳幼児死亡率の改善のキーは栄養ある離乳食 –

乳幼児死亡率の 50% 以上は、その背景に栄養不良があるといわれています。なぜなら、栄養が十分に摂れていない場合病気に罹りやすく、免疫も十分ではないため、ともすれば下痢や呼吸器感染症等の予防可能な病気です。この状況は、シェアの活動地でも見受けられています（表 4）。

シェアが子どもの健康増進を目指した乳幼児健診活動（表 5）を進めるなかでこれまで把握されていなかった栄養不良児（低体重）の存在が発見されるようになりました。健診後、なかでも重度の栄養不良状態だった子ども 48 名に対し家庭訪問を実施したところ、33 名が 2 週間以内に、咳・発熱・下痢症状があり、既に 2 名が呼吸器感染症で亡くなっていました。また、彼らのうち 21 名が安全な水へのアクセスがなく、19 名が離乳食の摂り方に問題があることがわかりました。具体的には、出生 7～8 カ月まで、塩のみのお粥だけだったり、母乳の補助としてコンデンスミルクを与えたり、スナック菓子を与えたりと、必要な栄養が全く与えられていないケースが多く見られました。子どもの栄養不良対策で、もっとも重要なことは 6 ヶ月までの母乳継続・栄養ある離乳食の摂取です。シェアは母親への離乳食教室や、乳幼児健診研修、住民組織との連携等を通して、子どもの健康改善に取り組んでいきたいと考えています。



村の母子への栄養に関する保健教育

表 4：子どもの死亡率の主な州比較

	新生児死亡率	0 歳児死亡率	乳幼児死亡率	5 歳未満児死亡率
モンドキリ州 / ラタナキリ州	56	65	122	165
プレイベン州	52	69	121	143
シエムリアップ州	34	33	67	94
プノンペン	24	18	42	52

出典：Cambodia Demographic and Health Survey 2005

表 5：アウトリーチでの乳幼児健診活動

	数値
シェアが乳幼児健診をサポートした村	69 ヶ村
シェアスタッフによるサポートを受けた HC スタッフの数	26 名
シェアスタッフによるサポートを受けた保健ボランティアの数	116 名
1 回以上乳幼児健診を受けた子ども (2 歳以下)	1056 名
2 歳以下の低体重の子どもの数	169 名
2 歳以下の重度の低体重の子どもの数	53 名

2010 年 4 月末現在

SHARE SHOP

SHARE SHOPでは、シェアの活動を紹介するDVDをはじめ、

シェーちゃん&アーちゃんグッズまでいろいろ販売しております。

www.share.or.jp/shop/



BOOK



すべてのいのちの輝きのために
国際保健 NGO・シェアの25年

サイズ A5 版
323 ページ/カラー口絵 8 ページ
価格 2,625 円 (税込)

DVD



すべてのいのちの輝きのために
国際保健 NGO・シェアの25年

20 分・日本語/英語シナリオ付き
会員 1 枚限り無料
価格 1,050 円 (税込)

DVD



私もできる国際協力
いのちを守る連続講座 全6巻

各 2 時間、資料付き
価格 1 枚：2,100 円
6 枚セット：10,500 円 (税込)

- vol1. 最初に犠牲になる母と子 —開発途上国における母子保健—
- vol2. 誰にでもできる国際協力とは? —世界における命の格差—
- vol3. 開発途上国の貧困を背景に広がるエイズ —あなたは地域で何ができるか—
- vol4. 緊急災害援助とは —国際・国内災害援助に必要なスキルとは—
- vol5. 私達の身近にある命の格差 —在日外国人はなぜ医療にかかりにくいのか—
- vol6. 永遠の課題「保健教育」 —コミュニケーションから始まる健康づくり—

BOOK



日本でできる国際協力
在日外国人と歩んだ 10 年

サイズ A4 版
133 ページ
価格 525 円 (税込)

BOOK



NGO で働くには??? NGO
スタッフ 9 人の「生き方」を大解剖!

サイズ A4 版
104 ページ
価格 1,050 円 (税込)

マグ & タンブラー



シェーちゃん&アーちゃん
マグ&タンブラー

価格各 1,470 円 (税込)

BOOK



デビッド・ワーナー著
「医者はいないところで」 邦訳版

サイズ B5 版
約 450 ページ
価格 2,100 円 (税込)
(利益目的ではなく、実費で頒布させていただいております)

皆さまからの募金でできること

250 円で エイズ遺児が栄養満点ご飯を食べることができます（南アフリカ）

1,000 円で HIV 陽性者への家庭訪問が 1 回できます（タイ）

5,000 円で 学校などで使われる栄養教育教材が 1 セットできます（東ティモール）

シェアは 2008 年 7 月 1 日に国税庁より「認定 NPO 法人」に認定されました。

皆さまからいただくご寄付は「寄付金控除」の対象となります。

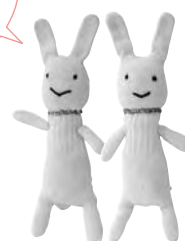
郵便振替	口座番号：00100-1-132730 口座名：特定非営利活動法人シェア国際保健協力市民の会
------	---

銀行振込	三菱東京 UFJ 銀行 春日町支店 店番号 062 口座番号：普通預金 0866524 口座名：特定非営利活動法人シェア国際保健協力市民の会 代表理事 本田徹
------	---

クレジット決済	お手続きはこちらから http://share.or.jp/share/donate/credit
---------	--



ボクたち、
ぬいぐるみの監修は
金森美世子さん



SHARE

2010 年 6 月 1 日発行

発行 特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 5F

TEL 03-5807-7581 FAX 03-3837-2151

<http://share.or.jp> E-mail info@share.or.jp

※本書の一部または全文を無断で複写、転載引用することを堅く禁じます。



すべての人に健康を！ Health for ALL!

身体が健やかである
だから私たちは元気に働けるのです

心が健やかである
だから私たちは家族に溢れる愛を注ぐことができるのです

地域が健やかである
だから私たちは異なる価値を持つ隣人と歩めるのです

世界が健やかである
だからこそ、人は未来へと生きることができるのです

その健やかな世界を全ての人とわかちあいたい

その熱い思いが行動となり、シェアが生まれました

シェアは今、アジア・アフリカの人々とともに活動しています

健康改善、エイズへの取り組み

健康で平和な世界を
すべての人とわかちあう(シェア)ために